



オアシス

文責：副学長
桑原雅次

出雲芸術アカデミーだより 2020年9月17日発行 第29号

9月も半ばを過ぎるとめっきり涼しくなりました。災害のない穏やかな秋となるようお願いしたいものです。世の中コロナ感染により気持ちも前向きにならない状況ですが、テニスの四大大会である全米オープンで、“大坂なおみ”選手が見事優勝を果たし、久しぶりの明るいニュースに社会全体にも大きく影響を及ぼしていたようです。影響が大きかった理由の一つは、人種差別による不当な行為に抗議の意を込めて、被害者名が記されている黒マスク姿での登場が話題となりました。通例なら選手生命を脅かす行為ですが、大坂選手は勇敢にも強い意志をもって抗議する姿に、他のプロスポーツ選手達にも影響を及ぼし、やがては世界中が人権意識を高める機会となりました。特に印象に残っているのは、優勝インタビューに答える大坂選手が、「貴方はこれらの行為をどう受け止めましたか？」と記者に逆質問する姿に、若干22歳の若者とは思えない器の大きさに驚きを隠せませんでした。

私も「I am a Yellow」の自信と誇りを大切に人権意識を高める行動をしていきたいものです。

◎ 感染症防止対策の指針が完成！

本アカデミーでは、7月から講座を再開していますが、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底するためにも受講生及び指導講師、事務局員が共通理解できる独自の指針が出来あがりました。以前、「オアシス」第25号でも感染症対策を掲載しましたが、3カ月近く経過し対応策も変化してきていることから、この度、見直しを検討したところです。

詳細については、指導講師及び事務局員に周知徹底いたしますのでご心配の方は直接お尋ねください。内容については、次に概略を記します。

1 基本的な事項について

- (1) 「三密」の回避⇒「換気の悪い密閉空間」「多くの人々の密集」「密接での会話」
- (2) 体温測定⇒受講日に自宅で体温測定。発熱の場合は受講を控える。
- (3) マスク着用⇒休憩時間、講座の前後はできるだけマスクを着用。
- (4) 消毒⇒手洗いや消毒の励行。
- (5) その他⇒咳エチケットの実践。飲食物の共有を避ける。熱中症対策の徹底。

2 講座について

- (1) 共通⇒演奏時の感染症対策は、専門的な検証を参考に取り組む。
- (2) 講座での普段の過ごし方<アカデミー・ディスタンス>
 - ① 会話をするときには距離をとる。
 - ② 近距離で会話する場合、マスクのできる人はマスクをする。
 - ③ マスクを外しているときやマスクのできない人は、近距離での会話は控える。
※ 感染が心配な場合は、「休学制度」や「特別欠席制度」を活用する。
- (3) 声楽（合唱・オペラ）
 - ① 口形、発音等の確認が必要なことがある時は、マスクを外すことがある。
 - ② 熱中症対策として、こまめに水分補給を行う。

裏面へ

(4) 器楽（オーケストラ・邦楽）

- ① 演奏時（講座中）はできるだけマスクを外す。不安がある場合は着用可能。
- ② 熱中症対策として、こまめに水分補給を行う。

(5) 幼児科

※「(2) 講座での普段の過ごし方」を参考にする。

3 臨時休校等について

- (1) 受講生、講師及び事務局員が感染者になった場合、原則「臨時休校」とする。期間は概ね2週間。
- (2) 受講生、講師及び事務局員が濃厚接触者に特定された場合、「臨時休校」の措置をとる。感染していた場合は(1)へ、感染していなかった場合は措置を解除。
- (3) 受講中、受講生に発熱や風邪の症状がみられる場合、安全に帰宅させ、症状がなくなるまで自宅休養。

◎ **LPレコードコンサートが開催される！**

コロナ禍の影響で本アカデミーの事業も多くが中止・変更追い込まれています。このような状況下において、音楽活動を停滞させることなく行動することはできないものかと思案する中で思いついたのがレコードコンサートです。本アカデミーには、初代の出雲フィル音楽監督や出雲市立図書館、音楽愛好者の方々から多くのレコードを寄贈していただいています。今回これを活用していこうと計画しました。また、再生するオーディオ機器も寄贈していただいていたものを修理し、環境を整えてきたところです。

今年は、ベートーヴェンの生誕250年ですので、交響曲を中心に企画したところです。12月までに月1回のペースで開催し、9～11月はアカデミー関係者のみでプレコンサートとして開催し、12月の一般公開に向けて試行錯誤を繰り返しながら体制を整えたいと思っています。

第1回は、ベートーヴェンの歌曲から「アデライーデ」、「やさしき愛」、「この暗い墓のうちに」を米山学長の解説を聴きながら、往年の名バリトン歌手“フィッシャー・ディスカウ”の歌声に酔いしれました。ベートーヴェンの歌曲は聴く機会が少なかったですが、今回学長の推薦で3曲を聴けたことは、改めてベートーヴェンの幅広い才能に気付かされたところです。次に交響曲から「交響曲第8番へ長調」は、幸運にも中井芸術監督によるミニ講座付きの鑑賞となりました。第8番が作曲された背景や曲の持つ特徴をわかりやすく解説していただき、興味がより深まったことは言うまでもありません。さらに、ベートーヴェンの弟子であるカール・ツェルニーについても触れ、のちの作曲家達への影響力がどの様に経過し、その過程についても学ぶことができました。また、ツェルニーがベートーヴェンの最高傑作を聴かれると真っ先に挙げたのが「交響曲第8番」と答えていることに関心がより高まりました。演奏は「ライプツィヒ・ゲバントハウス管弦楽団」を選びましたが、いろいろ調べるうちに最古の市民による私設オーケストラということがわかり、演奏者に対する興味も増したところです。

第2回は、10月14日(水)「交響曲第3番」を中心に開催します。また、特別ゲストとして“牛尾尚義”氏による「LPレコードの音質の良さ」等について語っていただく機会を調整しています。アカデミーに在籍する受講生の皆さんの多くの参加をお待ちしております。【詳細はHPに掲載中】



【このたよりは、本アカデミーホームページでも掲載します <https://www.izumo-zaidan.jp/academy/>】